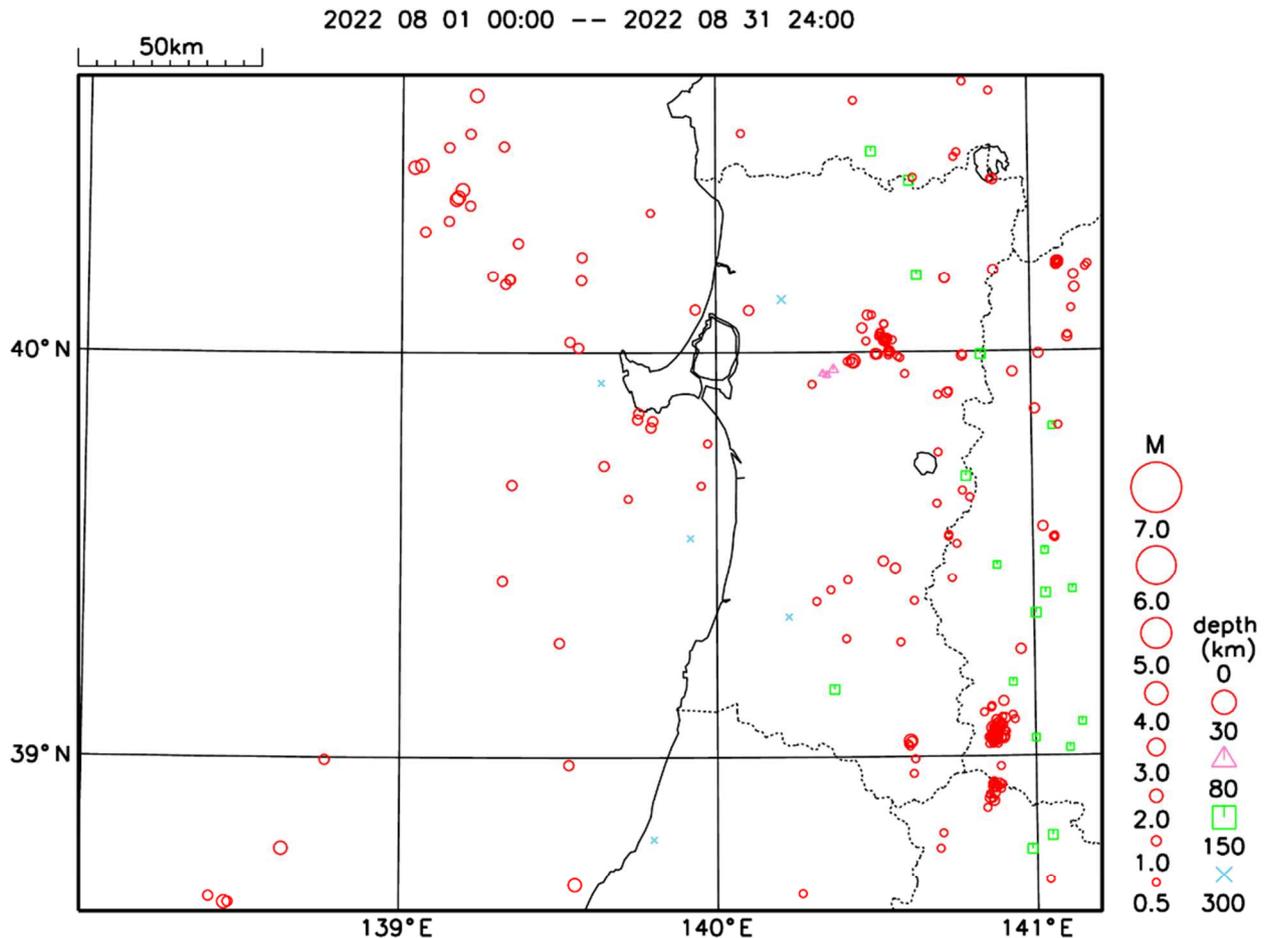


秋田県月間地震概況

秋田地方気象台

2022年8月

【震央分布図】



2022年9月15日現在、2022年8月1日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それより前と比較して微小な地震での震源決定数の変化(増減)が見られる。

〈8月の地震概況〉

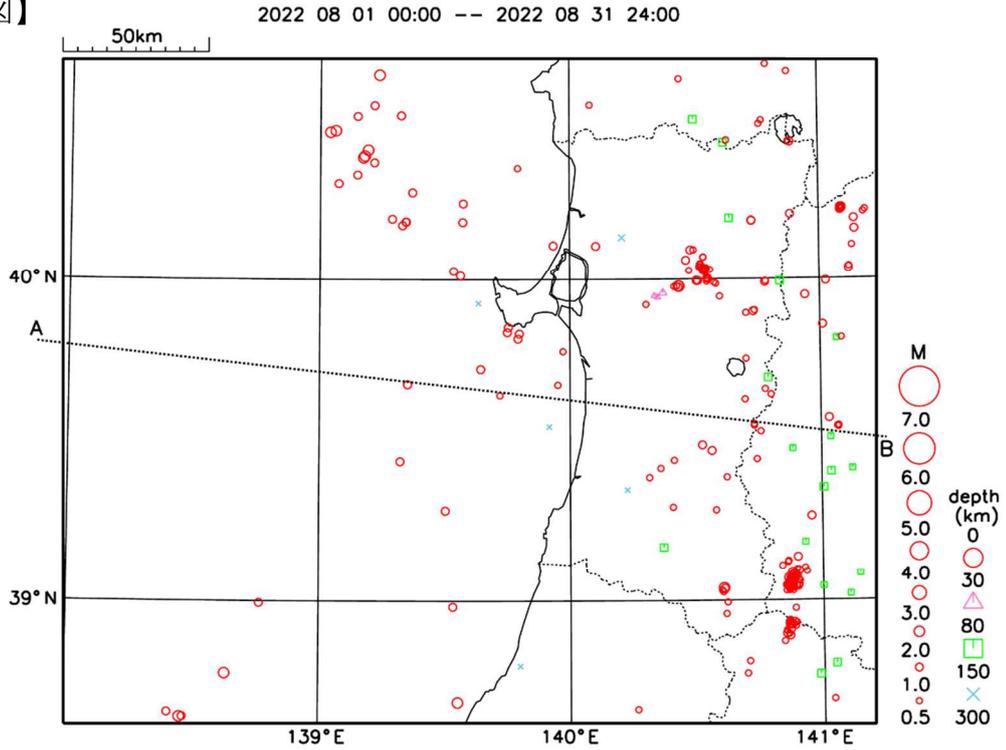
県内で震度1以上を観測した地震は6回（7月：4回）で、全て図の範囲外を震源とする地震であった。

4日09時48分に福島県沖の深さ57kmでM5.6の地震が発生し、福島県と宮城県で震度4を観測したほか、東北地方、関東地方、新潟県で震度3～1を観測した。県内では、仙北市で震度2を観測したほか、秋田市、湯沢市、大仙市などで震度1を観測した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。

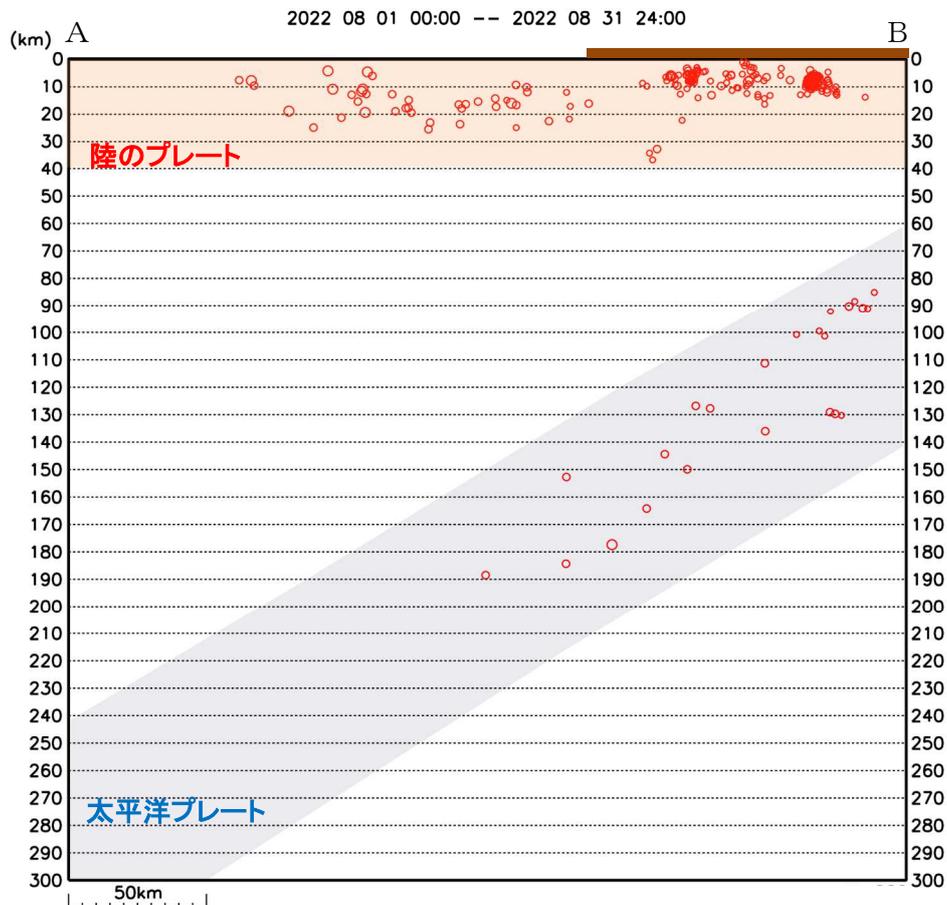
7日22時40分に北海道東方沖でM6.0の地震が発生し、北海道で震度3を観測したほか、東北地方と関東地方で震度2～1を観測した。県内では、横手市と大仙市で震度1を観測した。

18日14時46分に福島県沖の深さ56kmでM5.2の地震が発生し、宮城県と福島県で震度4を観測したほか、東北地方、関東地方、新潟県、静岡県で震度3～1を観測した。県内では、秋田市、由利本荘市、横手市などで震度1を観測した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。

【震央分布図】



【断面図】 (震央分布図内の直線A-Bを断面として投影した震源の深さの分布)



- ※ 太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。
- ※ は陸地の大まかな位置を示している。
- ※ 陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。
 なお、海域地殻内の地震の震源（日本海の浅い地震など）は、実際にはより浅いものが多いと考えられる。

秋田県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2022年8月1日～2022年8月31日

| 発震時 | 震央地名 | 北緯 | 東経 | 深さ | 規模 |
|-------------------|---|-------------|--------------|------|------|
| 各地の震度 | | | | | |
| 2022年08月04日09時48分 | 福島県沖 | 37° 36.7' N | 141° 37.1' E | 57km | M5.6 |
| 秋田県 | 震度 2 : 仙北市西木町上桧木内* 震度 1 : 井川町北川尻* 三種町森岳* 秋田市河辺和田* 秋田市雄和新波* 由利本荘市西目町沼田* 由利本荘市前郷* にかほ市平沢* 横手市雄物川町今宿 横手市大雄* 湯沢市沖鶴 湯沢市川連町* 湯沢市横堀* 羽後町西馬音内* 東成瀬村椿川* 東成瀬村田子内* 秋田美郷町六郷東根 秋田美郷町土崎* 大仙市刈和野* 大仙市北長野* 大仙市太田町太田* 大仙市大曲花園町* 大仙市高梨* 仙北市田沢湖生保内上清水* 仙北市田沢湖生保内宮ノ後* | | | | |
| 2022年08月07日22時40分 | 北海道東方沖 | 43° 43.8' N | 147° 44.0' E | 0km | M6.0 |
| 秋田県 | 震度 1 : 横手市大雄* 大仙市高梨* | | | | |
| 2022年08月10日00時48分 | 岩手県沿岸北部 | 39° 45.5' N | 141° 50.0' E | 59km | M4.1 |
| 秋田県 | 震度 1 : 大仙市高梨* | | | | |
| 2022年08月12日09時48分 | 宮城県沖 | 38° 33.0' N | 141° 50.0' E | 53km | M4.4 |
| 秋田県 | 震度 1 : 大仙市高梨* 仙北市西木町上桧木内* | | | | |
| 2022年08月18日14時46分 | 福島県沖 | 37° 36.1' N | 141° 35.1' E | 56km | M5.2 |
| 秋田県 | 震度 1 : 秋田市河辺和田* 由利本荘市前郷* 横手市雄物川町今宿 横手市大雄* 湯沢市沖鶴 羽後町西馬音内* 東成瀬村椿川* 東成瀬村田子内* 秋田美郷町六郷東根 大仙市刈和野* 大仙市大曲花園町* 大仙市高梨* 仙北市西木町上桧木内* 仙北市田沢湖生保内上清水* | | | | |
| 2022年08月28日12時04分 | 岩手県沿岸北部 | 39° 48.2' N | 141° 56.7' E | 56km | M4.2 |
| 秋田県 | 震度 1 : 大仙市高梨* | | | | |

(注) 地震の震源要素等は暫定値であり、再調査により変更することがある。

各地の震度は秋田県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

津波のメカニズムと避難行動

① 津波が発生するメカニズム

海底で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴い海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するのが津波です。(図1参照)

また、地震を発生させた地下の断層の傾きや方向、津波が発生した場所と海岸との位置関係によって、最初に潮が引く場合や、最初から大きな波が海岸に押し寄せる場合があります。

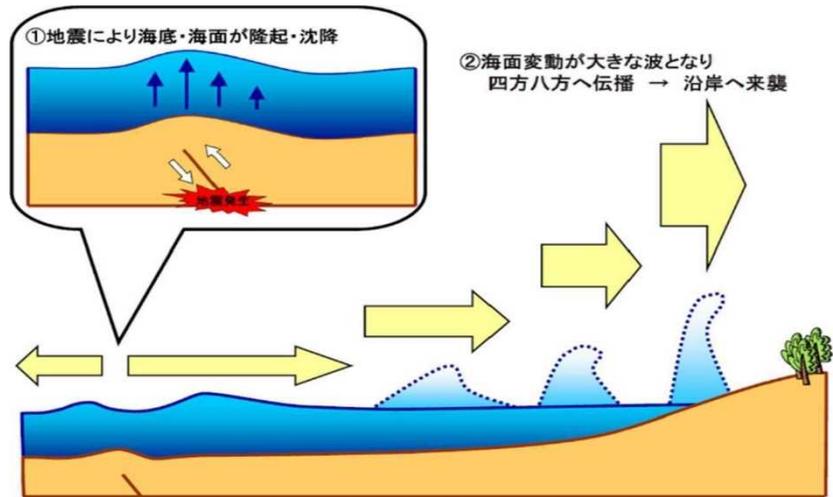


図1.津波発生仕組み

② 迅速な避難行動

津波は海が深いほど速く伝わり、沖合ではジェット機並みの速さになります。また、水深が浅くなるほど、高くなります。(図2参照)

津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。

まだ見えないと思っていても一瞬のうちに津波はやってきます。大きな揺れを感じたときや津波警報等が発表されたときに海の中や海岸付近にいる人は、**すぐに海から離れてより高い安全な場所**(高台やビルの屋上等)に避難しましょう。そのためにも平常時から避難場所や避難ルートを確認しておくことが大切です。

海岸付近で大きな揺れを感じたり、津波警報等が発表されたことをテレビやラジオ、インターネット、津波フラッグ、緊急速報メール等で知った場合は、実際に津波が見えていなくても、速やかに避難してください。また、津波は繰り返し襲ってきます。第一波より後に大きな津波が襲来する可能性もありますので、**津波警報が解除されるまでは避難を継続**してください。

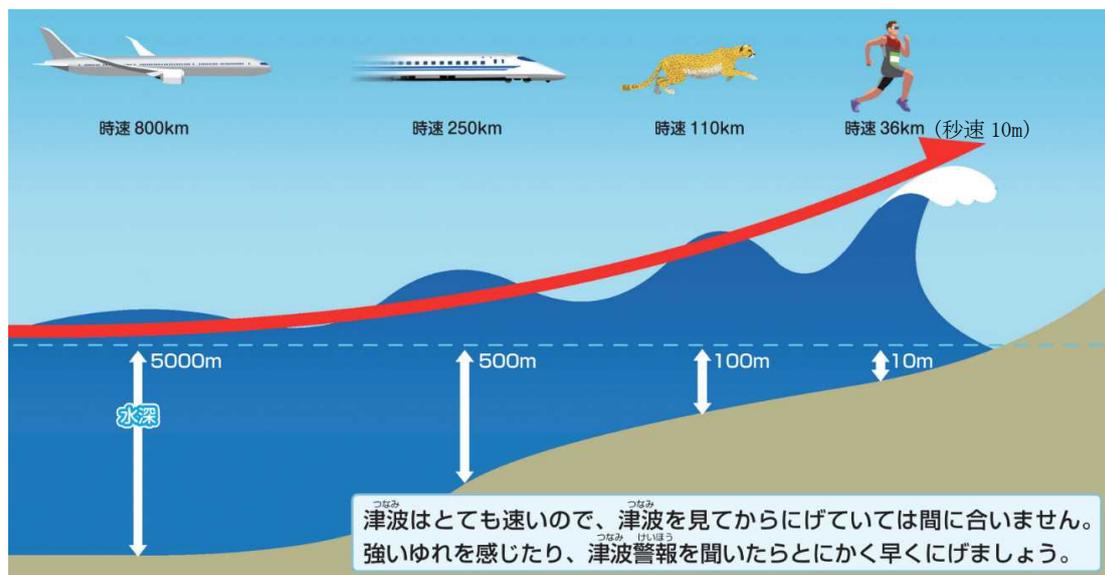


図2.津波の伝わる速さと高さ